



# 北海道キャンプ協会 かわら版

2013. 1. 1  
北海道キャンプ協会 発行  
Tel. 0134 (52) 3240

## 新年明けましておめでとうございます

昨年は北海道キャンプ協会 20 周年記念事業が開催されました。会員の皆様にはご協力いただき、ありがとうございました。参加して下さった他県のキャンプ協会の方々にはご好評をいただき無事終えることができました。

しかし、北海道キャンプ協会 20 周年事業は 4 月までまだまだ続きます。第 2 弾は巡回 BUC を開催します。

皆様の益々のご健康とご活躍を心からお祈りするとともに、北海道キャンプ協会への各種事業へのご参加をお待ちしています。



## 20 周年事業第 2 弾！！ 巡回 BUC 「環境教育プログラム講習会」 (お誘い)

### パッケージド・プログラムの上手な使い方を教えます！

キャンプインストラクター養成講習会で使用したテキスト「キャンプ指導者入門」に書かれている「パッケージド・プログラム」(p172)を覚えていますか？パッケージド・プログラムには、活動のねらいや概要、準備物、活動内容など具体的な指導の手順が紹介されており、キャンプを企画する指導者にとって非常に便利なツールと言えます。では、みなさんはこれまでパッケージド・プログラムを使ったことがあるのでしょうか？使ったことがないという方も多いのではないのでしょうか。パッケージド・プログラムは便利そうに見えますが、意外に“使ったことがない”という指導者も多いのです。それにはいくつかの理由があります。

パッケージド・プログラムといえば、「ネイチャーゲーム」が一番イメージしやすいのではないのでしょうか。ネイチャーゲームは本になって書店でも販売されているので誰でも簡単に手に入れることができます。しかし、使いやすいテキストや道具、新しく開発された活動はネイチャーゲームの資格を持っている人しか手に入れることができません。また、「プロジェクトワイルド」(生き物をテーマとした環境教育プログラム)、「プロジェクトWET」(水をテーマとした環境教育プログラム)、「プロジェクトラーニングツリー」(木をテーマとした環境教育プログラム)、「MARE」(海を学ぶ体験型科学教育カリキュラム)といったパッケージド・プログラムは、研修を受けて資格を取得した人しかテキストを手に入れることができないため、誰でも手軽に指導できるというわけではありません。もちろん、資格を必要としないパッケージド・プログラムもありますが、資格が必要なものに比べると使用しにくかったり、どのようにアレンジして使えばいいのか分かりにくいプログラムもあります。

それならば“資格を取得すればいいのでは？”となりますが、やはり研修を受けるには時間もお金もかかるため、“本当に必要だ！”と思えないとなかなか研修を受けようという気持ちにもならないのも現状でしょう。しかし、このようなパッケージド・プログラムは活動のねらいや目的などがはっきり分かっているため、各種学校での出前講座、幼稚園での環境教育授業、小学生の自然体験クラブ運営や子育てサークルでの自然体験活動、リーダー研修や雨天プログラムなど実際のキャンプで使用する機会はたくさんあります。また、パッケージド・プログラムを多く知っていることで、企画の幅は大きく広がると思います。

そこで、今回の巡回BUCでは、プロジェクトワイルド、プロジェクトWET、プロジェクトラーニングツリー、ネイチャーゲーム、OBIS、IORE、GEMS、MAREなど、資格が必要なものから資格がなくても指導できるものまでさまざまなパッケージド・プログラムの紹介し、実際に体験しながらパッケージド・プログラムとは何かについて学んでいきたいと思えます。それ以外にも、私が実際に指導しているパッケージド・プログラムのアレンジ方法や各パッケージド・プログラムの最新情報などもご紹介できればと思っております。

企画力・指導力アップのために、ぜひ巡回 BUC にご参加ください

巡回 BUC 講師：二杉寿志 (おたる自然の村)

「プロジェクトワイルド」「プロジェクトWET」「プロジェクトラーニングツリー」資格認定指導者  
「キャンプディレクター1級」「ネイチャーゲーム」「MARE」「GEMS」資格取得者

## 編集長の話

皆さんこんにちは。前回のかわら版から編集を担当させていただいていますタムタムこと田村一茂です。なるべく見やすいものを皆さんにお送りしたいと思っています。よろしくお願いします。

私はキャンプ協会ではキャンプディレクター2級PDの資格を持っていますが、普段は全く関係のない資格、健康運動指導士と言う資格を使って病院で働かせていただいています。

先日の話ですが仕事の関係でボランティアとして宮城県気仙沼市ヘリハビリ支援という形で仮設住宅を回ってきました。昨年度、北海道キャンプ協会20周年事業の下見を兼ねて、福島県キャンプ協会の周年事業に参加させていただき、その帰りに、宮城県キャンプ協会の方々に石巻市を案内していただきました。高台の公園から石巻市の街を見ましたが、海や川沿いには建物が何もなかったり、移動の最中は1階部分だけが津波に流され2階で生活している方々の現状を目の当たりにしたりと、東日本大震災の凄まじさを肌で実感したのを覚えています。

場所は違いますが陸前高田市も被害が大きかったと聞いています。

私達の宿泊先は陸前高田市にあり、活動場所の気仙沼市に行くために陸前高田の海沿いを通りました。1年経って少しは建物が増えていると思いましたが、海沿いには何もなくて、あるのは残った建物や瓦礫の山だけでした。街中の復興は進んでいますが、少し離れると何もなかったり仮設住宅が多くあったりと復興にはまだまだ時間が必要だと感じました。

気仙沼市では5つの仮設住宅を回らせていただきました。津波の被害にあい、避難所生活や仮設住宅生活を通して新しい近所付き合いが始まり、知り合いが増えたと喜んでいる反面、住民の方々との話の中で「日常会話はするけど最後には津波がきた時の話に必ずなってしまう」という話をしていた時の皆さんの悲しそうな顔が印象的でした。明るく振舞っていても、震災当時の記憶は薄らいでいないのだと感じました。

しかし、その中でも住民の方々に“笑い”を提供できたのは良かったと思っています。笑う事が健康に良いという話を聞いたことがあります。少しの時間ではありませんが、楽しいひと時を提供できたのではないかと思います。

震災ボランティアに求められるのは、個人的には医療従事者によるリハビリだと思っていました。確かに狭い仮設住宅で暮らす中で肩・腰・膝に痛みを抱える方が多いですが、家族、親戚等が亡くなり心に大きな傷を負った方も多いと思います。身体のリハビリも大切ですが、心のリハビリも必要であると感じ、身体を治すだけではなく集団で楽しませ気分を盛り上げてくれる専門家の必要性も感じました。

今回のボランティアは5日間という短い期間でしたが、現場に行かないと分からなことが沢山有り貴重な時間を過ごすことができました。

私達の仲間の中には故郷が震災に遭い、少しでも故郷の人達の力になろうと、戻って活動をしている方もいます。完全な復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、私自身も機会があればまたボランティアに参加したいと考えています。

## 20周年記念 巡回BUCについて

キャンプ協会20周年事業第2弾の巡回BUCですが地域の会員相互のコミュニケーションとスキルアップを目的に3会場にて実施予定です。

日程・会場

- (1) 2月3日(日)  
北海道教育大学釧路校
- (2) 3月2日(土)  
ネイパル洞爺
- (3) 3月9日(土)  
札幌エルプラザ



プロジェクトワイルド・プロジェクトWET・プロジェクトラーニングツリーの他ネイチャーゲーム、OBIS、IORE、GEMS、MAREなども行います。詳細は別紙を参照してください。皆様のご参加をお待ちしております！

## 協会スタッフ募集！！

北海道キャンプ協会では一緒に協会の活動を盛り上げてくれるスタッフを募集しています。キャンプ協会を立ち上げたスタッフも年々年を重ねており、協会スタッフの若返りをはかっています。協会の仕事に興味がある方、北海道キャンプ協会の次世代を担ってくれる方、一緒に北海道を盛り上げていきませんか？

興味のある方は下記までご連絡ください。皆様と活動できる日を楽しみにしています！

皆様のご意見、ご要望はお気軽に…

## 北海道キャンプ協会

担当/安原・岩崎

〒047-0155 小樽市望洋台 2-14-1 望洋ゲイルズ(特)自然教育促進会内

TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667

E-mail office@hokkaidocamp.com

URL <http://www.hokkaidocamp.com/index>